

2023年度 小委員会活動成果報告

(2024年2月4日作成)

小委員会名	伝熱小委員会	主査名：松岡大介 就任年月：2023年4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (熱環境運営委員会)	委員長名：大岡龍三 主査名：都築和代
設置期間	2023年4月 ～ 2025年3月	
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>建物の伝熱問題に関わる研究開発・性能検証・評価を幅広く取り上げる。窓・壁など伝熱の基本問題、これらを総合したファサードエンジニアリングの問題と AIJES 化、また、熱環境関連の情報技術に関する問題を取り上げる。</p> <p>初年度：3WG を中心に、研究の最新動向についての議論を行う。 AIJES の発刊準備を行う。</p> <p>2年度：3WG を中心に、研究の最新動向についての議論を行う。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：松岡大介 (ものづくり大学) 幹事：井口雅登 (日本大学) 委員：奥山博康 (神奈川大学), 一ノ瀬雅之 (東京都立大学), 萩原伸治 (建材試験センター), 齋藤孝一郎 (YKK AP), 石野久彌 (東京都立大学), 郡公子 (宇都宮大学名誉教授), 永田明寛 (首都大学東京), 酒井孝司 (明治大学), 武田仁 (東京理科大学), 宇田川光弘 (工学院大学名誉教授), 尾崎明仁 (九州大学), 森太郎 (北海道大学), 糸井川高穂 (旭化成ホームズ)</p>	
設置WG (WG名:目的)	<p>1) 建材熱性能 AIJES WG : 部位や建材レベルでの熱性能・エネルギー性能・カーボンニュートラル性能の評価方法の構築に向けて討議する。</p> <p>2) 建築伝熱評価 WG 実態の建築の熱損失係数など各種熱性能指標についての測定及び予測評価方法について検討する。</p> <p>3) 熱環境情報 WG 建築の伝熱工学研究の立場から、オープンデータやオープンソースに関する議論を行う。</p>	
2023年度予算	200,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 4回の小委員会(第4回は2024年2月に開催予定)を開催し、幅広い情報 交換と討議を行った。
委員会活動の問題点 ・課題	特になし

*中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2023年度 小委員会活動 自己評価 (中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	① B C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>伝熱小委員会を4回開催（第4回は2024/2月に開催予定）した。本小委員会では、建材、住宅、建築、都市、地域といった様々なスケールの伝熱現象を扱うとともに、建物と設備システムを総合したエネルギー性能、環境性能についても広い視点から問題を取り上げ、最新の研究開発、設計事例の紹介、性能評価・検証などの情報交換の場とした。建築学会大会において、OS（多様な温熱環境）を主催した。2024年度のAIJESの発刊に向け目次案、著者候補などの具体的な検討を進めた。</p> <p>1) 建材熱性能 AIJES WG 部位や建材レベルにおける熱貫流率、日射熱取得率等に関して AIJES 化を目的とした活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none">● 建材熱性能 AIJ-ES 執筆者等● 建材熱性能 AIJ-ES 企画刊行 <p>2) 建材伝熱評価 WG 熱損失係数、日射熱取得係数、有効熱容量等の定義、現場測定法や予測評価法等に関連する検討例を調査し紹介・収集して、窓・壁など伝熱の基礎問題に関する各種の評価方法について課題や妥当性など広い視点から議論を行った。</p> <ul style="list-style-type: none">● 木造外皮の劣化環境の定量化とリスク評価に関する検討 <p>3) 熱環境情報 WG 建物の熱環境分野を対象とした情報技術（ソフトウェア、データ、IoT 技術、AI 等）について検討・整理し、教育・研究・実務に役立てることについて議論を行った。</p> <ul style="list-style-type: none">● BIM と LCC データおよび BMS との連携に関する研究について● オフィス空間におけるオープンエアダクトを用いた空気搬送● 寒冷なりモートエリアのサステイナブルデベロップメント

●総合評価は4段階（A>B>C>D）にて、自己評価すること。

●中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。

A評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度

B評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度

C評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度

D評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度

●小委員会の活動に対し、第三者的评价・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。

●提出対象年：設置期間4年の場合は、2年目「中間年度評価」、4年目「最終年度評価」（1年目・3年目不要）

設置期間3年の場合は、2年目「中間年度評価」、3年目「最終年度評価」（1年目不要）

設置期間2年の場合は、1年目「中間年度評価」、2年目「最終年度評価」

設置期間1年の場合は、1年目「最終年度評価」